

ワイヤレス マイクロホンパッケージ

取扱説明書

UWP-V1/V2
UWP-X7/X8

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の
取り扱いかたを示してあります。この取扱説明書をよくお読みの
うえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、
いつでも見られるところに必ず保管してください。

安全のために

ソニー製品は安全に充分に配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることもあり、危険です。

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

4、5 ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検を実施する

5 年に 1 度くらいは内部の点検について、お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご相談ください。

故障したら使用を中止する

お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- 異常な音、におい、煙が出たら
- 落としたら



- ① 電源を切る。
- ② バッテリーおよびすべての接続ケーブルを抜く。
- ③ お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口に修理を依頼する。

炎が出たら



お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口に修理を依頼する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながる場合があります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電



注意

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止

行為を禁止する記号



指示

目次

⚠ 警告	4	ダイバーシティーチューナー モジュール (URX-M2) の 組み込み	22
⚠ 注意	4	操作	24
電池についての安全上のご注意	5	雑音が発生するときは	24
商品の構成	6	受信機の設定	25
UWP-V1	6	受信チャンネルを設定する	25
UWP-V2	7	グループ内の空きチャンネルを 検索する (クリアチャンネル スキャン)	26
UWP-X7	8	複数のチューナーモジュールの チャンネルを自動設定する	27
UWP-X8	9	モニター音量を調節する	27
特長	10	使用積算時間をリセットする	28
UWP-V1	10	送信機の設定	29
UWP-V2	10	送信チャンネルを設定する	29
UWP-X7	11	送信出力のレベルを設定する	30
UWP-X8	11	音声入力のアッテネーターレベルを 設定する	30
各部の名称と働き	11	使用積算時間をリセットする	31
ボディーパケットトランスミッター (送信機: UTX-B2)	11	使用チャンネルの選択	31
ハンドヘルドマイクロホン (送信機: UTX-H2)	13	チャンネルプラン	32
ポータブルダイバーシティーチュー ナー (受信機: URX-P2)	14	システム構成例	33
ダイバーシティーチューナーモ ジュール (受信機: URX-M2) ...	16	エラーメッセージ	35
電源	17	故障かなと思ったら	36
電池を入れる	17	使用上のご注意	39
取り付けと組み込み	20	使用・保管場所	39
ボディーパケットトランスミッター (UTX-B2) への付属品 取り付け	20	お手入れ	39
ハンドヘルドマイクロホン (UTX- H2) への付属品取り付け	20	主な仕様	40
ポータブルダイバーシティーチュー ナー (URX-P2) への付属品取り 付け	21	送信機 (UTX-B2/H2)	40
		受信機 (URX-P2/M2)	41
		保証書とアフターサービス	43
		保証書	43
		アフターサービス	43



警告



火災 感電

下記の注意を守らないと、
火災や感電により死亡や大けがに
つながることがあります。



禁止

設定操作時にアンテナ に目を近づけすぎない

ディスプレイ部で設定操作
をするときに目を近づけす
ぎると、アンテナで目を突き、
けがにつながる可能性があります。



注意

下記の注意を守らないと、
けがをしたり周辺の物品に**損害**を
与えることがあります。



禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災の原因
となることがあります。
万一、水や異物が入ったときは、
すぐに電源を切り、
バッテリーまたは外部電源
ケーブルや接続ケーブルを
抜いて、お買い上げ店または
ソニーの業務用商品相談
窓口にご相談ください。



禁止

油煙、湯気、湿気、ほ こりの多い場所では設 置・使用しない

上記のような場所およびパ
ワーアンプなど発熱体の近く
で設置・使用すると、火災
や感電の原因となることが
あります。



指示

電源の ON/OFF 時には、接続した機器の入力を絞る

電源の ON/OFF 時には大きな
雑音が発生し、接続した
機器あるいはスピーカーなどに
損害を与えることがあります。



指示

受信待機時には、接続 した機器の入力を絞る

受信待機時や RF レベルが
小さくなったときは、大きな
雑音が発生し、接続した
機器あるいはスピーカーなどに
損害を与えることがあります。



分解禁止

外装を外さない、改造 しない

外装を外したり、改造したり
すると、感電やけがの原因
となることがあります。
内部の点検や修理は、お買
い上げ店またはソニーの業
務用商品相談窓口にご依頼
ください。

電池についての安全上のご注意

ここでは、本機で使用可能な乾電池についての注意事項を記載しています。

警告

- 機器の表示にあわせて⊕と⊖を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多い場所で使用しない。
- 液漏れした電池を使用しない。
- 電池を使い切ったときや、長時間使用しないときは本体から取り出す。

注意

- 外装のチューブをはがしたり、傷つけない。
- 指定された種類の電池以外は使用しない。
- 火のそばや直射日光が当たるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。

商品の構成

この取扱説明書は、ワイヤレスマイクロホンパッケージ UWP-V1/V2/X7/X8 に共通です。各パッケージの商品構成は次の通りです。

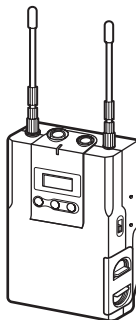
UWP-V1

ボディパックトランスミッター（送信機：UTX-B2）とポータブルダイバーシティチューナー（受信機：URX-P2）のセットです。小型カムコーダーとの組み合わせにより、ENG、EFP アプリケーションにおいて機動性のあるシステムを構築することができます。

ボディパックトランスミッター
(UTX-B2) (1)

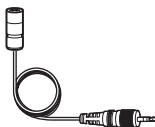


ポータブルダイバーシティチューナー
(URX-P2) (1)



付属品

無指向性ラベリアマイ
クロホン (1)



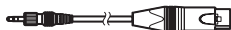
ウインドスクリーン (1)



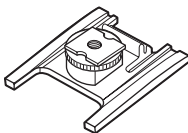
ホルダークリップ (1)



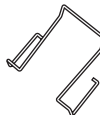
UTX-B2 用 XLR-BMP 変換
入力ケーブル (1)



シューマウントアダプター (1)



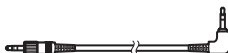
ベルトクリップ (2)



URX-P2 用 XLR-BMP 変換
出力ケーブル (1)



ステレオミニ-BMP
変換ケーブル (1)

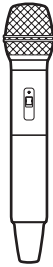


取扱説明書 (1)

UWP-V2

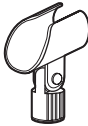
ハンドヘルドマイクロホン（送信機：UTX-H2）とポータブルダイバーシティーチューナー（受信機：URX-P2）のセットです。小型カムコーダーとの組み合わせにより、ENG、EFP アプリケーションにおいて機動性のあるシステムを構築することができます。

ハンドヘルドマイクロホン
(UTX-H2) (1)

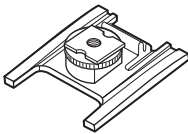


付属品

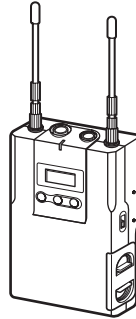
マイクホルダー (1)



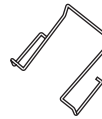
シューマウントアダプター (1)



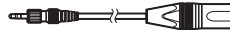
ポータブルダイバーシティーチューナー
(URX-P2) (1)



ベルトクリップ (1)



URX-P2 用 XLR-BMP 変換出力ケーブル (1)



ステレオミニ -BMP 変換ケーブル (1)



取扱説明書 (1)

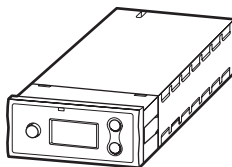
UWP-X7

ボディパックトランスミッター（送信機：UTX-B2）とダイバーシティーチューナーモジュール（受信機：URX-M2）のセットです。チューナーモジュールをチューナーベースユニットやパワードミキサーに組み込むことにより、目的の用途、規模に合わせたシステムの構築が可能です。

ボディパックトランスミッター
(UTX-B2) (1)

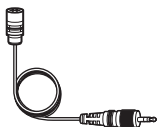


ダイバーシティーチューナーモジュール
(URX-M2) (1)



付属品

単一指向性ラベリア
マイクロホン (1)



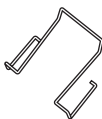
ウインドスクリーン (1)



ホルダークリップ (1)



ベルトクリップ (1)

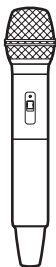


取扱説明書 (1)

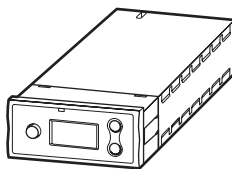
UWP-X8

ハンドヘルドマイクロホン（送信機：UTX-H2）とダイバーシティーチューナーモジュール（受信機：URX-M2）のセットです。チューナーモジュールをチューナーベースユニットやパワードミキサーに組み込むことにより、目的の用途、規模に合わせたシステムの構築が可能です。

ハンドヘルドマイクロホン
(UTX-H2) (1)

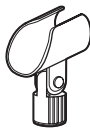


ダイバーシティーチューナーモジュール
(URX-M2) (1)



付属品

マイクホルダー (1)



取扱説明書 (1)

特長

ワイヤレスマイクロホンパッケージ UWP-V1/V2/X7/X8 (UWP シリーズ) は、送信機 (ボディーパケットランスマッター (UTX-B2) またはハンドヘルドマイクロホン (UTX-H2)) と受信機 (ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P2) またはダイバーシティーチューナーモジュール (URX-M2)) 各 1 点ずつの組み合わせです。小型カムコーダーと組み合わせて ENG (Electric News Gathering) に、またはパワードミキサーなどと組み合わせて AV プレゼンテーションや小規模な PA システムに使用できます。

ご注意

UWP シリーズは、従来のトランスミッター (WRT シリーズ)、チューナー (WRR シリーズ)、チューナーユニット (WRU シリーズ) との互換性はありません。

各パッケージの特長は次の通りです。

UWP-V1

ボディーパケットランスマッター (送信機: UTX-B2)

水晶制御 PLL シンセサイザー方式を採用した小型かつ軽量のトランスミッターです。送信出力は、10 mW/2 mW の切り換えが可能です。また、MIC/LINE セレクターを搭載し、さまざまな入力レベルに対応します。

ポータブルダイバーシティーチューナー (受信機: URX-P2)

ドロップアウトの少ないスペースダイバーシティー方式を採用し、角度可変型アンテナを装備しています。小型カムコーダー (PMW-EX1、HDR-Z7 など) に取り付けるためのアダプターを付属しています。また、空きチャンネルを自動的に検索するクリアチャンネルスキャン機能を搭載しています。

UWP-V2

ハンドヘルドマイクロホン (送信機: UTX-H2)

単一指向性ダイナミックマイクロホンユニットを搭載したワイヤレスマイクロホンです。アンテナは内蔵型です。送信出力は、10 mW/2 mW の切り換えが可能です。

ポータブルダイバーシティーチューナー (受信機: URX-P2)

ドロップアウトの少ないスペースダイバーシティー方式を採用し、角度可変型アンテナを装備しています。小型カムコーダー (PMW-EX1、HDR-Z7 など) に取り付けるためのアダプターを付属しています。また、空きチャンネルを自動的に検索するクリアチャンネルスキャン機能を搭載しています。

UWP-X7

ボディーパケットランスマッター（送信機：UTX-B2）

水晶制御 PLL シンセサイザー方式を採用した小型かつ軽量のランスマッターです。送信出力は、10 mW/2 mW の切り換えが可能です。また、MIC/LINE セレクターを搭載し、さまざまな入力レベルに対応します。

ダイバーシティーチューナーモジュール（受信機：URX-M2）

チューナーベースユニット MB-X6 やパワードミキサー SRP-X500P などに組み込んで使用するチューナーモジュールです。

UWP-X8

ハンドヘルドマイクロホン（送信機：UTX-H2）

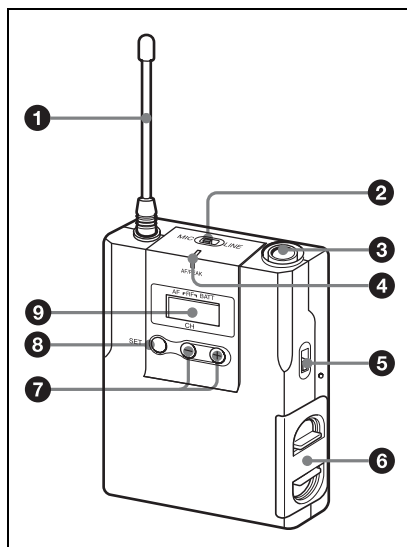
単一指向性ダイナミックマイクロホンユニットを搭載したワイヤレスマイクロホンです。アンテナは内蔵型です。送信出力は、10 mW/2 mW の切り換えが可能です。

ダイバーシティーチューナーモジュール（受信機：URX-M2）

チューナーベースユニット MB-X6 やパワードミキサー SRP-X500P などに組み込んで使用するチューナーモジュールです。

各部の名称と働き

ボディーパケットランスマッター（送信機：UTX-B2）



① アンテナ

② MIC/LINE（マイクロホン／ライン入力）セレクター

音声入力端子に接続されている機器に応じて切り換えます。

ご注意

オーディオミキサーなどからの音声の入力中に、このセレクターを「MIC」側に切り換えないでください。過大なレベルの音声が入力されると、音声のひずみや

再生・録音機器の故障の原因となることがあります。

③ 音声入力端子

付属のラベリアマイクロホンを接続します。または、付属の UTX-B2 用 XLR-BMP 変換入力ケーブルを使用して、オーディオミキサーなどのライン出力端子や、外部電源を必要としないマイクロホンを接続します。

ご注意

- MIC/LINE セレクターを「MIC」側に切り換えて使用するときには、音声入力端子にはラベリアマイクロホンの電源用に電圧がかかります。また、音声入力端子は特殊な配線になっています。付属のラベリアマイクロホン以外の機器を接続する場合は、必ず UTX-B2 用 XLR-BMP 変換入力ケーブル（UWP-V1 にのみ付属）をご使用ください。（XLR-BMP 変換ケーブルは、UWP-X7 には付属していません。）
- 付属以外のラベリアマイクロホンを接続した場合、十分な性能を得られないことがあります。

④ AF/PEAK（音声入力 / ピークレベル）インジケーター

音声入力のレベルによって、以下のように点灯 / 消灯します。

点灯（赤）：音声レベルが高すぎます。音声にひずみが生じる場合は、アッテネーターレベルを調整して入力レベルを下げてください（30 ページ）。

点灯（緑）：適正な音声入力レベルです。

消灯：音声入力がないか、レベルが低すぎます。

⑤ POWER（電源）スイッチ

本機の電源を ON/OFF します。

⑥ 電池ケース

単 3 形アルカリ乾電池 2 本を入れます。

- ◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電源」（17 ページ）をご覧ください。

⑦ + / -（設定値の増／減および使用積算時間表示リセット）ボタン

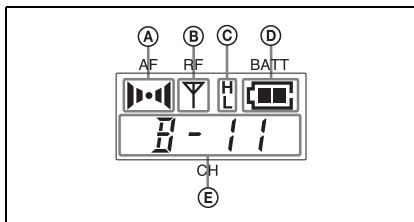
+ または - ボタンを押して、ディスプレイ部に希望の設定値を表示させます。使用積算時間を表示している場合は、- ボタンを押すと、表示が「00:00」に戻ります。

⑧ SET（設定）ボタン

このボタンを押して、ディスプレイ部の表示内容や、設定する項目を変更します。

- ◆ 詳しくは「送信機の設定」（29 ページ）をご覧ください。

⑨ ディスプレイ部



⑨ A AF（音声入力）表示

基準レベル以上の音声信号が入力されると点灯します。

⑨ B RF（送信出力）表示

アンテナから信号を送信しているときに点灯します。

㉟ RF（送信出力）レベル表示

送信出力のレベルを表示します。

- ◆ 詳しくは「送信出力のレベルを設定する」（30 ページ）をご覧ください。

㊱ BATT（バッテリー残量）表示

乾電池の残量を表示します。

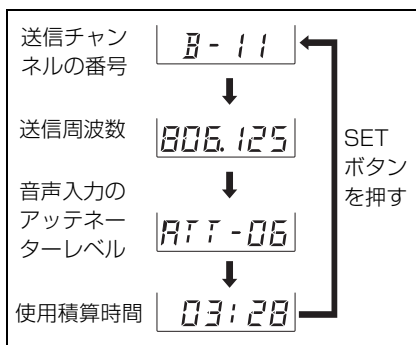
- ◆ 詳しくは「乾電池残量の表示」（18 ページ）をご覧ください。

㊲ CH（チャンネル）表示

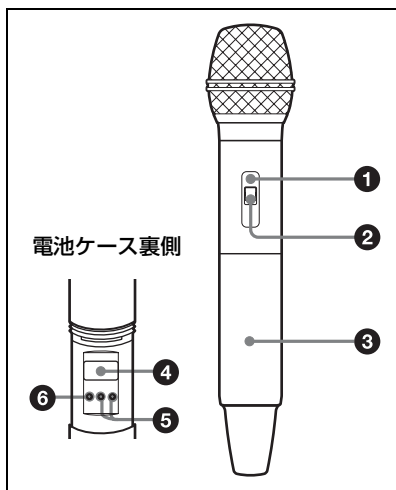
送信チャンネルの番号を表示します。

SET ボタンを押すたびに、表示は送信チャンネルの番号、送信周波数、音声入力のアッテネーターレベル、使用積算時間の順に切り替わります。

- ◆ 詳しくは「送信機の設定」（29 ページ）をご覧ください。



ハンドヘルドマイクロホン（送信機：UTX-H2）



❶ パワーインジケーター

電源が入ると緑色に点灯します。

❷ POWER（電源）スイッチ

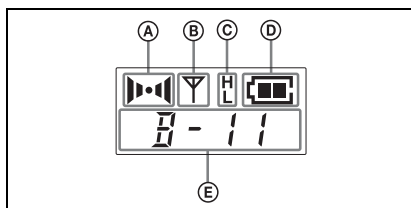
本機の電源を ON/OFF します。

❸ 電池ケース

単 3 形アルカリ乾電池 2 本を入れます。

- ◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電源」（17 ページ）をご覧ください。

❹ ディスプレイ部



㊤ AF（音声入力）表示

基準レベル以上の音声信号が入力されると点灯します。

㊦ RF（送信出力）表示

アンテナから信号を送信しているときに点灯します。

㊧ RF（送信出力）レベル表示

送信出力のレベルを表示します。

- ◆ 詳しくは「送信出力のレベルを設定する」（30 ページ）をご覧ください。

㊨ BATT（バッテリー残量）表示

乾電池の残量を表示します。

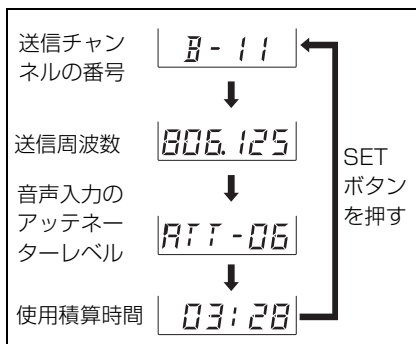
- ◆ 詳しくは「乾電池残量の表示」（18 ページ）をご覧ください。

㊩ CH（チャンネル）表示

送信チャンネルの番号を表示します。

SET ボタンを押すたびに、表示は送信チャンネルの番号、送信周波数、音声入力のアッテネーターレベル、使用積算時間の順に切り替わります。

- ◆ 詳しくは「送信機の設定」（29 ページ）をご覧ください。



㊪ + / -（設定値の増／減および使用積算時間表示リセット）ボタン

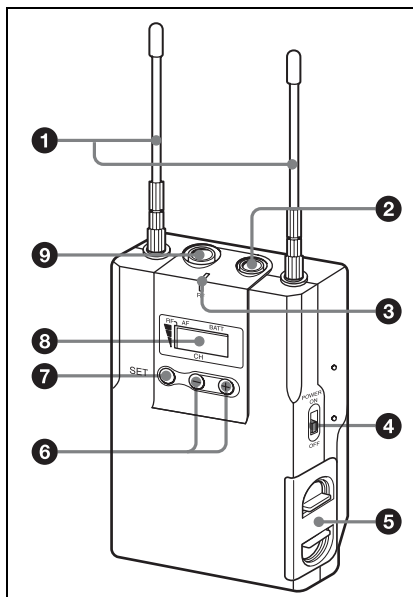
+ または - ボタンを押して、ディスプレイ部に希望の設定値を表示させます。使用積算時間を表示している場合は、- ボタンを押すと、表示が「00:00」に戻ります。

㊫ SET（設定）ボタン

このボタンを押して、ディスプレイ部の表示内容や、設定する項目を変更します。

- ◆ 詳しくは「送信機の設定」（29 ページ）をご覧ください。

ポータブルダイバーシティーチューナー（受信機：URX-P2）



① アンテナ

② MONITOR（モニター）端子 （Φ3.5 mm ステレオミニジャック）

この端子にヘッドホンを接続して、音声出力をモニターします。

ご注意

モノラルミニジャックのヘッドホンがこの端子に接続しないでください。ヘッドホン出力がショートし、音声がひずみます。

③ RF（高周波入力）インジケーター

入力された高周波入力レベルによって、次のように点灯します。

点灯（緑）：入力レベルは $15 \text{ dB } \mu^1$ 以上

消灯：入力レベルは $15 \text{ dB } \mu^1$ 以下

1) $0 \text{ dB } \mu = 1 \text{ } \mu \text{V}_{\text{EMF}}$

④ POWER（電源）スイッチ

本機の電源を ON/OFF します。

⑤ 電池ケース

単 3 形アルカリ乾電池 2 本を入れます。

◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電源」（17 ページ）をご覧ください。

⑥ + / -（設定値の増／減および使用積算時間表示リセット）ボタン

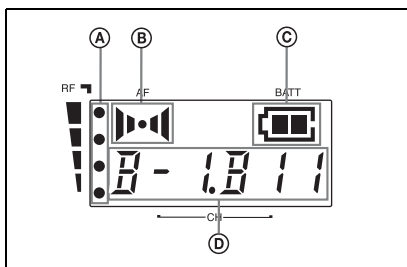
+ または - ボタンを押して、ディスプレイ部に希望の設定値を表示させます。使用積算時間を表示している場合は、- ボタンを押すと、表示が「00:00」に戻ります。また、モニター音量の調節にも使用します。

⑦ SET（設定）ボタン

このボタンを押して、ディスプレイ部の表示内容や設定する内容を変更します。

◆ 詳しくは「受信機の設定」（25 ページ）をご覧ください。

⑧ ディスプレイ部



Ⓐ RF（高周波入力）表示

高周波入力のレベルを表示します。入力レベルにより点灯するドット（●）の数が変わります。

Ⓑ AF（音声出力）表示

基準レベル以上の音声信号が出力されると表示されます。

Ⓒ BATT（バッテリー残量）表示

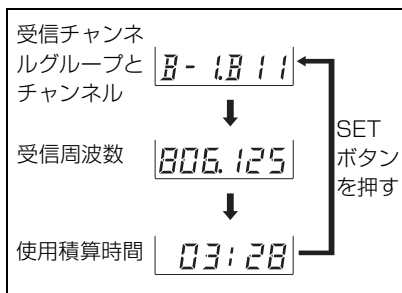
乾電池の残量を表示します。

◆ 詳しくは「乾電池残量の表示」（18 ページ）をご覧ください。

Ⓓ CH（チャンネル）表示

受信チャンネルのグループとチャンネルを表示します。SET ボタンを押すたびに、表示は受信チャンネルグループとチャンネル、受信周波数、使用積算時間の順に切り替わります。

◆ 詳しくは「受信機の設定」（25 ページ）をご覧ください。



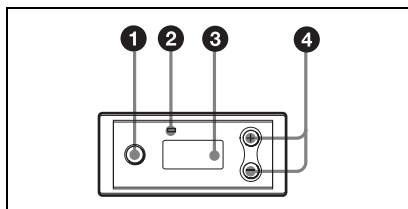
⑨ OUTPUT (音声出力) 端子 (Φ3.5 mm ステレオミニジャック)

付属の URX-P2 用 XLR-BMP 変換出力ケーブルまたはステレオミニ-BMP 変換ケーブルを接続し、カムコーダーまたはミキサー、アンプなどのマイクロホン入力端子に接続します。接続する機器のマイクロホン入力端子がステレオミニジャックの場合は、ストレート (BMP) プラグをチューナーに、L 型 (ステレオミニ) プラグを相手の機器のマイクロホン入力端子に接続してください。

ご注意

マイクロホン用外部電源などの電圧を加えないでください。故障の原因になります。

ダイバーシティーチューナーモジュール (受信機: URX-M2)



① SET (設定) ボタン

このボタンを押して、ディスプレイ部の表示内容や設定する内容を変更します。

◆ 詳しくは「受信機の設定」(25 ページ) をご覧ください。

② RF (高周波入力) インジケーター

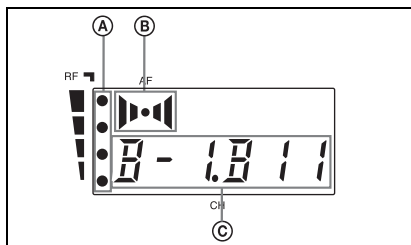
入力された高周波入力レベルによって、次のように点灯します。

点灯 (緑): 入力レベルは $25 \text{ dB} \mu^1$ 以上

消灯: 入力レベルは $25 \text{ dB} \mu^1$ 以下

$1) 0 \text{ dB} \mu = 1 \mu \text{V}_{\text{EMF}}$

③ ディスプレイ部



④ RF (高周波入力) 表示

高周波入力のレベルを表示します。入力レベルにより点灯するドット (●) の数が変わります。

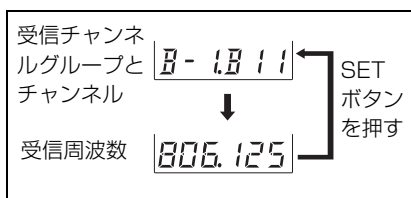
⑧ AF（音声出力）表示

基準レベル以上の音声信号が出力されると表示されます。

⑨ CH（チャンネル）表示

受信チャンネルのグループとチャンネルを表示します。SET ボタンを押すたびに、表示は受信チャンネルグループとチャンネル、受信周波数の順に切り替わります。

- ◆ 詳しくは「受信機の設定」（25 ページ）をご覧ください。



④ + / -（設定値の増／減）ボタン

+ または - ボタンを押して、ディスプレイ部に希望の設定値を表示させます

電源

ここでは各機器の電源について説明しています。

ダイバーシティーチューナーモジュール（URX-M2）

電源は組み込み先の機器（MB-X6、SRP-X500P など）から供給されます。

- ◆ ダイバーシティーチューナーモジュール（URX-M2）の電源について詳しくは、組み込み先機器の取扱説明書をご覧ください。

ボディーパケットランスミッター（UTX-B2）、ハンドヘルドマイクロホン（UTX-H2）とポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P2）

単3形アルカリ乾電池2本で動作します。各機器の電池の入れかたと、電池の残量表示について下記の項目で説明しています。

ご注意

マンガン乾電池を使用すると、十分な性能が得られません。必ずアルカリ乾電池を使用してください。

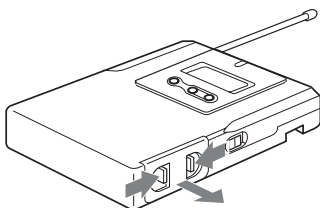
電池を入れる

ボディーパケットランスミッター（UTX-B2）／ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P2）

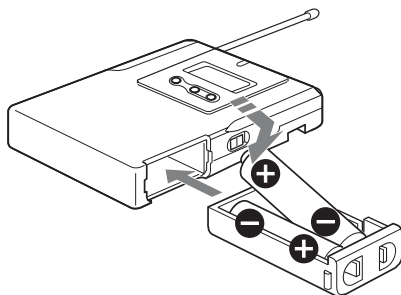
下記手順はボディーパケットランスミッター（UTX-B2）のイラストを使って説

明していますが、電池の入れかたはポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P2) も同様です。

- 1 2つの取っ手をつまんで同時に中央に寄せながら、電池ケースを引き出す。



- 2 新しい単3形アルカリ乾電池2本の⊕と⊖を確認して入れ、電池ケースを戻す。

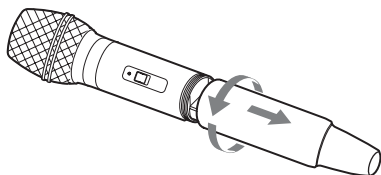


ご注意

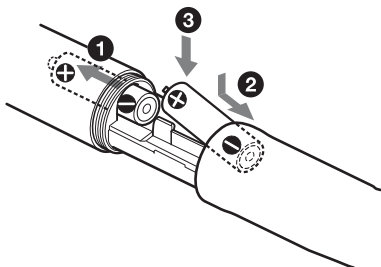
送信中に電池ケースの出し入れを行うと、大きな雑音が発生します。電池ケースの出し入れは、必ず電源を切ってから行ってください。

ハンドヘルドマイクロホン (UTX-H2)

- 1 マイクロホンのグリップを矢印の方向に回して、電池ケースを開ける。



- 2 新しい単3形アルカリ乾電池2本を、⊕と⊖が同じ向きになるように確認して入れる。



- 3 グリップを手順1の矢印の反対方向に回して電池ケースを閉める。

ご注意

送信中にグリップの開閉を行うと、雑音が発生します。グリップの開け閉めは、必ず電源を切ってから行ってください。

乾電池残量の表示

POWERスイッチをONにすると、ディスプレイ部に本機の乾電池の残量が表示されます。

下記の表の4の表示が点滅し始めたら、直ちに乾電池を2本とも新しいものと交換してください。新しい乾電池は、記載されている使用推奨期限を確認の上使用してください。

	BATT 表示	乾電池の状態
1	点灯 	良好
2	点灯 	残量 50% 以下
3	点灯 	残量 20% 以下
4	点滅 	ほとんど消耗している

ご注意

交換した乾電池が新しくない場合は、乾電池の残量が正しく表示されない場合があります。長時間続けてお使いになるときは、新しい乾電池と交換することをおすすめいたします。

乾電池についてのご注意

乾電池の使い方を誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。

- ⊕ と ⊖ の向きを正しく入れてください。
- 乾電池を交換するときには、必ず2本とも新しい乾電池と交換してください。
- 新しい乾電池と使用した乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。

- 乾電池は充電できません。
- 本機を長時間使わないときは、乾電池を取り出しておいてください。万一、液漏れが起こったときは、ソニーのサービス窓口にお持ちください。

注意

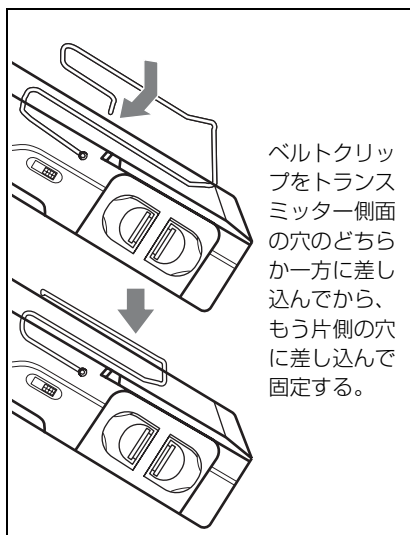
指定以外の電池に交換すると、破裂する危険があります。
必ず指定の電池に交換してください。
使用済みの電池は、国または地域の法令に従って処理してください。

取り付けと組み込み

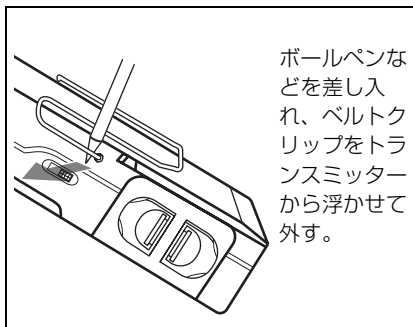
ここでは各機器への付属品の取り付けかたと、ダイバーシティーチューナーモジュールのチューナーベースユニット MB-X6 とパワーDMキサー SRP-X500P への組み込みかたについて説明しています。

ボディパックトランスミッター (UTX-B2) への付属品取り付け

ベルトクリップを取り付ける

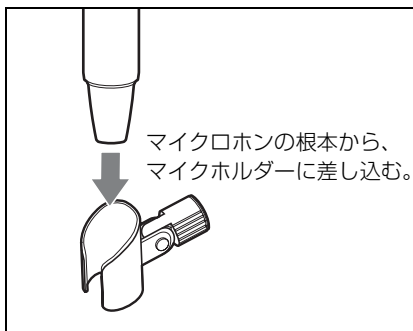


ベルトクリップを外すには



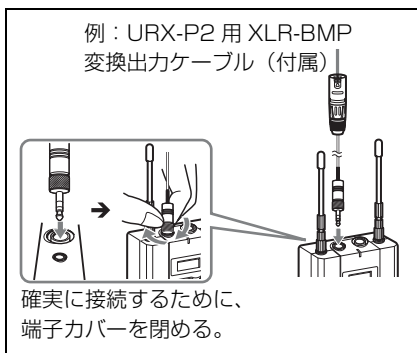
ハンドヘルドマイクロホン (UTX-H2) への付属品取り付け

マイクホルダーを取り付ける



ポータブルダイバーシ ティーチューナー（URX- P2）への付属品取り付け

OUTPUT 端子に付属の変換ケー ブルを接続する

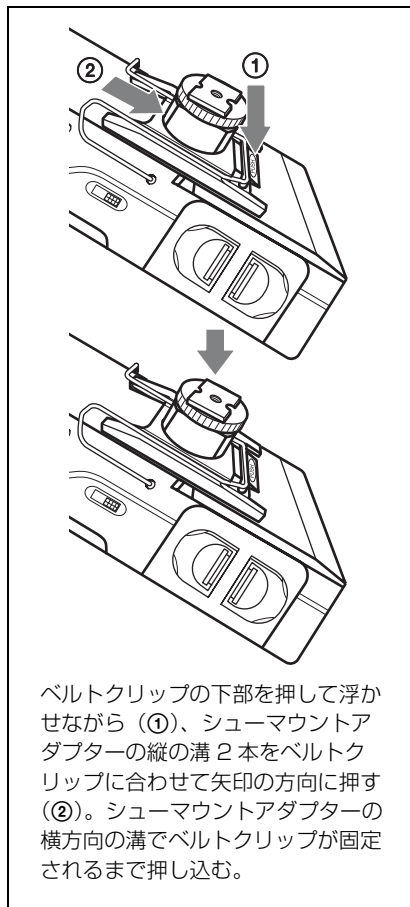


ベルトクリップを取り付ける

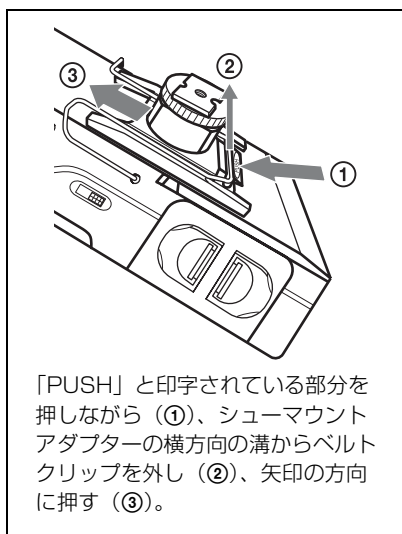
- ◆「ベルトクリップを取り付ける」（20 ページ）
を参照してください。

シューマウントアダプターを取 り付ける

あらかじめベルトクリップを取り付けて
おいてください（20 ページ）。



シューマウントアダプターを取り外すには



ダイバーシティーチューナーモジュール (URX-M2) の組み込み

ご注意

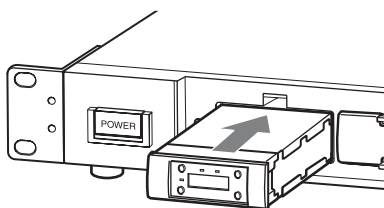
- 必ず組み込み先の機器の電源をOFFにしてからチューナーモジュールを組み込んでください。電源がONのときはチューナーモジュールの組み込み・取り外しは絶対に行わないでください。ノイズや、コネクター不良の原因となります。
- チューナーモジュール後面の端子部や、チューナーズロット内部に手を触れないでください。
- 静電気にご注意ください。

チューナーユニット MB-X6 に組み込む

MB-X6 には、ダイバーシティーチューナーモジュール (URX-M2) を 6 台まで組み込むことができます。

◆ チューナーモジュールの組み込みについて詳しくは、MB-X6 に付属の取扱説明書をご覧ください。

チューナーモジュールの側面を持ってスロットに入れ、カチッと音がするところまで押し込みます。

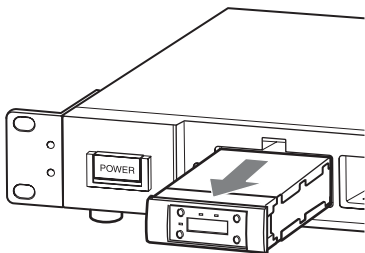


2 台以上のチューナーモジュールを組み込むには

あらかじめ MB-X6 のフロントカバーから、組み込みたいスロットのブランクパネルを取り外しておきます。

チューナーモジュールを取り外すには

MB-X6 のフロントカバーを外し、チューナーモジュールの上下をつまんでスロットから引き出します。

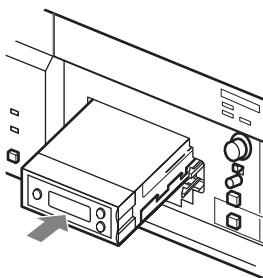


パワードミキサー SRP-X500P に組み込む

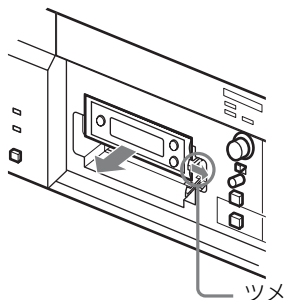
SRP-X500P には、ダイバーシティーチューナーモジュール（URX-M2）を2台まで組み込むことができます。

- ◆ チューナーモジュールの組み込みについて詳しくは、SRP-X500P に付属の取扱説明書をご覧ください。

SRP-X500P の誤動作防止パネル（大）を外し、チューナーモジュールの上下を確認してから、チューナーモジュールの側面を持ってスロットに入れ、押し込みます。



チューナーモジュールを取り外すには
SRP-X500P のチューナーモジュールを固定しているツメを横に引きながら取り出します。



操作

この操作の対象：UWP シリーズのすべての機器（UTX-B2/H2 および URX-P2/M2）

- 1 必要に応じて、受信機の接続をする。
 - ◆ 接続例について詳しくは、「システム構成例」（33 ページ）をご覧ください。
- 2 受信機のPOWERスイッチをONにして電源を入れる。

前回使用時に電源を切る前に表示されていた内容がディスプレイ部に表示されます。

ご注意

電源を入れるとノイズが発生しますので、受信機に接続した機器の入力を絞ってから電源を入れてください。

- 3 受信機の受信チャンネルを設定する。

送信機の電源を切った状態で受信機のチャンネルを切り換え、RF インジケーターが点灯していないチャンネルを選択します。

 - ◆ 受信チャンネルの設定について詳しくは、「受信チャンネルを設定する」（25 ページ）をご覧ください。
- 4 送信機の送信チャンネルを設定し、いったん電源を切る。

- ◆ 送信チャンネルの設定について詳しくは、「送信チャンネルを設定する」（29 ページ）をご覧ください。

5 送信機の電源を入れる。

雑音が発生するときは

設置場所によっては、外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。このような場合は、使用チャンネルを設定するときに、送信機の電源をOFFにしたまま受信機のチャンネルを切り換え、RF インジケーターが点灯していないチャンネル（雑音や妨害電波の影響を受けていないチャンネル）を選択して使用してください。送信機も同じチャンネルに設定してください。

ご注意

混信や雑音を防ぐため、次の点に注意してください。

- 同じチャンネルに設定した送信機を同時に2本以上使わないでください。
- UWP シリーズを同時に2組以上使用する場合は、同一グループ内の互いに異なるチャンネルにそれぞれ設定してください。
- 送信機と受信機のアンテナは、互いに3m以上離して使うことをおすすめします。
- 2組以上のUWPシリーズで異なるチャンネルグループを使用する場合は、仕切りや障害物がなく見通せる広い空間では、システム間の距離を100m以上離してください。（距離は使用環境により異なります。）

受信機の設定

受信チャンネルを設定する

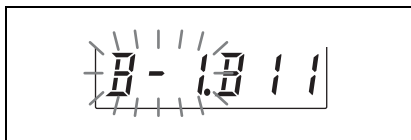
この操作の対象：UWP シリーズのすべての受信機（URX-P2/M2）

選択可能なチャンネルグループとチャンネルについては、「チャンネルプラン」（32 ページ）を参照してください。

- 1 SET ボタンを 1 秒以上押したままにする。

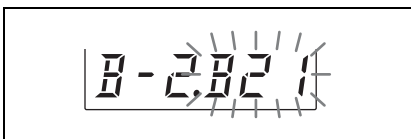
設定内容がディスプレイ部で点滅するまで、SET ボタンを押したままにしてください。

- 2 SET ボタンを繰り返し押して、チャンネルグループ表示を点滅させる。



- 3 + または - ボタンを押して、希望のグループ名を選択し、SET ボタンを押す。

チャンネルグループが設定され、チャンネル番号表示が点滅します。



ご注意

10 秒間どのボタンも押さないか、SET ボタンを 1 秒以上押したままにすると、表示の点滅が止まり、その時点での設定内容が記憶されます。この動作は、他の項目を設定する場合も同じです。

- 4 + または - ボタンを押して、希望のチャンネル番号を表示させる。

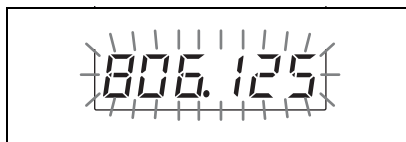
希望のチャンネル番号が表示されたら、約 10 秒間どのボタンも押さずにそのまま放置するか、SET ボタンを 1 秒以上押したままにします。表示の点滅が止まり、表示されているチャンネルが確定します。

周波数を表示させてチャンネルを選択するには

- 1 SET ボタンを 1 秒以上押したままにする。

設定内容がディスプレイ部で点滅するまで、SET ボタンを押したままにしてください。

- 2 SET ボタンを繰り返し押して、周波数表示を点滅させる。



- 3 + または - ボタンを押して、希望の周波数を選択する。

希望の周波数が表示されたら、約 10 秒間どのボタンも押さずにそのまま放置するか、SET ボタンを 1 秒以上

押したままにします。表示の点滅が止まり、表示されている周波数が確定します。

ご注意

- 受信チャンネルの設定中でも、受信はできません。
- 設定中に電池を抜かないでください。抜けてしまった場合は、電池を入れ直し、設定の手順を最初から行ってください。
- 同一システム内の送信機と受信機は同じチャンネルに設定してください。
- 設定後に、電源を切った直後に電源を入れると、正しく動作しないことがあります。数秒経ってから、電源を入れてください。

グループ内の空きチャンネルを検索する（クリアチャンネルスキャン）

この操作の対象：ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P2）のみ

設定されているチャンネルグループ内の空きチャンネルを検索することができます。

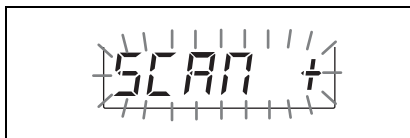
以下の操作を行う前に、あらかじめチャンネルグループを設定しておいてください。

- ◆ 詳しくは「受信チャンネルを設定する」（25ページ）をご覧ください。

1 SET ボタンを押しながら + ボタンを押す。

両方のボタンを押したままにしてください。

2 「SCAN +」が点滅したら、SET ボタンと + ボタンを放す。



3 + ボタンを押す。

設定されているチャンネルグループの中で、使用可能な空きチャンネルを検索します。空きチャンネルが見つかったら、最初の空きチャンネルの番号が点滅します。

次の空きチャンネルを表示させるには

+ ボタンを押します。

検索をキャンセルするには

- ボタンを押します。ディスプレイ部の表示が「SCAN +」の点滅状態に戻ります。

チャンネルグループを設定し直すには

SET ボタンをもう一度押してチャンネルグループ表示を点滅させ、設定し直します。その後、手順 **1** からやり直します。

4 希望のチャンネル番号が点滅したら、約 10 秒間どのボタンも押さずにそのまま放置するか、SET ボタンを 1 秒以上押したままにする。

空きチャンネルの検索が終了します。チャンネル表示の点滅が止まり、表示されているチャンネルが確定します。

設定操作中に空きチャンネルの検索操作に入るには

設定内容がディスプレイ部で点滅した状態で SET ボタンを繰り返し押し、「SCAN +」を点滅させます。その後、上記の手順の **3**以降を行います。

複数のチューナーモジュールのチャンネルを自動設定する

この操作の対象：ダイバーシティチューナーモジュール (URX-M2) のみ

ダイバーシティチューナーモジュール (URX-M2) を MB-X6 に組み込んで多チャンネル同時運用を行う場合、スロット **1** に挿入したチューナーモジュールに対してチャンネルグループ設定を行うと、他のチューナーモジュールを自動的に同じグループの異なるチャンネルに設定することができます。

- 1** マイクロホンおよびトランスミッターの電源をすべてオフにする。
- 2** スロット **1** のチューナーモジュールで、使用するチャンネルグループを設定する。
- 3** チャンネルグループ表示が点滅から点灯に変わったの確認してから（設定から約 10 秒後）、スロット **1** のチューナーモジュールの + ボタンを 3 秒以上押したままにする。

MB-X6 に組み込まれたすべてのチューナーモジュールが、同じグ

ループの異なるチャンネルに自動的に設定されます。

自動設定後、各チューナーモジュールのグループおよびチャンネルを、手動で変更することもできます。

ご注意

- 空きチャンネルの自動設定は、チャンネルグループ 00 以外で行ってください。
- 外来電波などの影響で運用できないチャンネルがあった場合、チャンネルの設定ができなかったチューナーモジュールのディスプレイ部に「NO CH」と表示されます。この場合は、外来電波のない別のチャンネルグループを選択して、上記の手順を再度行ってください。

モニター音量を調節する

この操作の対象：ポータブルダイバーシティチューナー (URX-P2) のみ

モニター音量は、01 ～ 24 の範囲で設定できます。

- 1** 通常の表示（ディスプレイ部が点滅していない）状態のときに、+ または - ボタンを押す。

モニター音量のレベルが表示されます。



2 +または-ボタンを押して、希望のモニター音量レベルを表示させる。

2秒以上そのまま放置するか、SET ボタンを1秒以上押したままにすると、その時点での設定値が記憶され、ディスプレイ部の表示は設定する前の状態に戻ります。設定値は、電源を切っても保持されます。

押すと、手順**2**で表示していた値に戻ります。

4 約10秒間どのボタンも押さずにそのまま放置するか、SET ボタンを1秒以上押したままにする。

表示の点滅が止まり、表示されている設定が確定します。

使用積算時間をリセットする

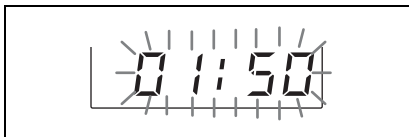
この操作の対象：ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P2）のみ

使用時間の表示は、本機の電源が入っている時間の合計を時間と分で表示します。乾電池を交換したときに表示を「00:00」に戻しておく、と乾電池の積算使用時間がわかって便利です。

1 SET ボタンを1秒以上押したままにする。

設定内容がディスプレイ部で点滅するまで、SET ボタンを押したままにしてください。

2 SET ボタンを繰り返し押して、使用積算時間表示を点滅させる。



3 -ボタンを押す。

表示は「00:00」に戻ります。「00:00」が点滅している間に+ボタンを

送信機の設定

送信チャンネルを設定する

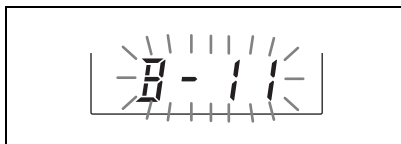
この操作の対象：UWP シリーズのすべての送信機（UTX-B2/H2）

選択可能なチャンネルグループとチャンネルについては、「チャンネルプラン」（32 ページ）を参照してください。

- 1 SET ボタンを押したままで、POWER スイッチを ON にする。

電源を切る前に表示されていた設定内容がディスプレイ部で点滅するまで、SET ボタンを押したままにしてください。

- 2 SET ボタンを繰り返し押して、チャンネル番号を点滅させる。

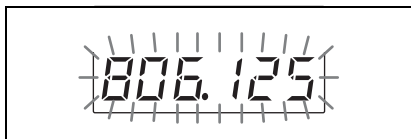


- 3 + または - ボタンを押して、希望のチャンネル番号を表示させる。
- 4 POWER スイッチを OFF にしていったん設定を終了するか、SET ボタンを押して別の項目を表示して設定を続ける。

設定内容は、電源を入れ直したときに反映されます。

周波数を表示させてチャンネルを選択するには

- 1 SET ボタンを押したままで、POWER スイッチを ON にする。
- 2 SET ボタンを繰り返し押して、周波数表示を点滅させる。



- 3 + または - ボタンを押して、希望の周波数を選択する。
- 4 POWER スイッチを OFF にしていったん設定を終了するか、SET ボタンを押して別の項目を表示して設定を続ける。

ご注意

- 送信チャンネル設定中には、送信はできません。
- 設定中には、電池を抜かないでください。抜けてしまった場合は、電池を入れ直し、設定の手順を最初から行ってください。
- 同一システム内の送信機と受信機は同じチャンネルに設定してください。
- 設定後に、電源を切った直後に電源を入れると、正しく動作しないことがあります。数秒経ってから、電源を入れてください。

送信出力のレベルを設定する

この操作の対象：UWP シリーズのすべての送信機（UTX-B2/H2）

送信出力のレベルを、H（10 mW）または L（2 mW）のいずれかに設定できます。複数のチャンネルを同時に運用するときは L に、広い空間で使用するときには H に設定します。

- 1 SET ボタンを押したままで、POWER スイッチを ON にする。
- 2 SET ボタンを繰り返し押し、アンテナ出力のレベル表示を点滅させる。



- 3 + または - ボタンを押して、希望の送信出力レベルを表示させる。

H を選択するときは + ボタンを、L を選択するときは - ボタンをそれぞれ押します

- 4 POWER スイッチをいったん OFF にして設定を終了するか、SET ボタンを押して別の項目を表示して設定を続ける。

設定の内容は、電源を入れ直したときに反映されます。

音声入力のアッテネーターレベルを設定する

この操作の対象：UWP シリーズのすべての送信機（UTX-B2/H2）

音声入力のアッテネーターレベルは、送信中でも設定できます。

ご注意

UTX-B2 の MIC/LINE セレクターを「LINE」側に切り換えて使用しているときは、アッテネーターレベルの設定はできません（0 dB 固定）。この場合は、音声出力側の機器でレベルを調整してください。

1 送信していないとき

SET ボタンを押したままで、POWER スイッチを ON にし、SET ボタンを繰り返し押してアッテネーターレベル表示を点滅させる。



送信しているとき

SET ボタンを繰り返し押してアッテネーターレベルを表示させる。

- 2 + または - ボタンを押して、希望のアッテネーターレベルを表示させる。

設定できる範囲は 0 dB ～ 21 dB（3 dB ステップ）で、初期値は 0 dB です。

ご注意

アッテネーターレベルを大きくすると、雑音が増える場合があります。UTX-B2 に付属のラベリアマイクrohンを胸元に付けて使用する場合は、なるべく 0 dB に設定してください。

3 送信していないとき

POWER スイッチをいったん OFF にして設定を終了するか、SET ボタンを押して別の項目を表示して設定を続ける。

設定内容は、電源を入れ直したときに反映されます。

使用積算時間をリセットする

この操作の対象：UWP シリーズのすべての送信機 (UTX-B2/H2)

- 1 SET ボタンを押したままで、POWER スイッチを ON にする。
- 2 「使用積算時間をリセットする」(28 ページ) の手順 **2** ～ **3** を行う。
- 3 POWER スイッチをいったん OFF にして設定を終了するか、SET ボタンを押して別の項目を表示して設定を続ける。

設定内容は、電源を入れ直したときに反映されます。

使用チャンネルの選択

UWP シリーズは、B 型帯域 30 チャンネルのうち、任意に選択したチャンネルを使用できます。

UWP シリーズを同時に複数使用する場合、混信を起こさないチャンネルの組み合わせが豊富に用意されています。

はじめに受信機のグループを指定し (00 グループ以外)、プログラムされているチャンネルを設定することにより、多チャンネル同時運用が容易に行えます。送信機の送信チャンネルを、受信機の受信チャンネルと同じチャンネルに設定してご使用ください。

チャンネルプラン

・ B 型標準チャンネルプラン表

チャンネル	周波数 (MHz)
B-11	806.125
B-12	806.375
B-13	807.125
B-14	807.750
B-15	809.000
B-16	809.500
B-21	806.250
B-22	806.500
B-23	807.000
B-24	807.875
B-25	808.500
B-26	808.875
B-31	806.625
B-32	806.875
B-33	807.375
B-34	808.250
B-35	808.625
B-36	809.250
B-41	806.750
B-42	807.500
B-43	808.000
B-44	809.125
B-45	809.375
B-46	809.750
B-51	807.625
B-52	808.125
B-53	808.375
B-54	808.750
B-55	809.625
B-61	807.250

・ 受信機内蔵チャンネルプラン表

グループ名	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	B-6
チャンネル名	B-11	B-21	B-31	B-41	B-51	B-61
	B-12	B-22	B-32	B-42	B-52	
	B-13	B-23	B-33	B-43	B-53	
	B-14	B-24	B-34	B-44	B-54	
	B-15	B-25	B-35	B-45	B-55	
	B-16	B-26	B-36	B-46		

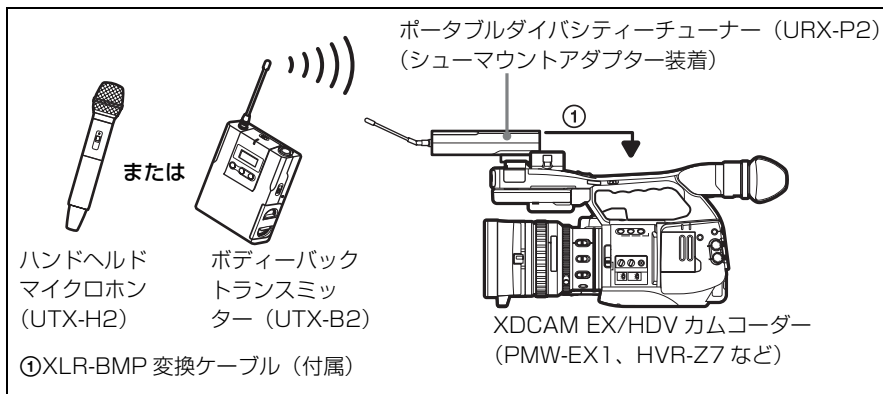
さらに、上記のチャンネルプラン以外に
7チャンネル同時運用のためのソニーオリジナルチャンネルプランが2つあります（下表）。

グループ名	B-7	B-8
チャンネル名	B-11	B-21
	B-12	B-31
	B-33	B-13
	B-52	B-14
	B-54	B-25
	B-36	B-16
	B-55	B-46

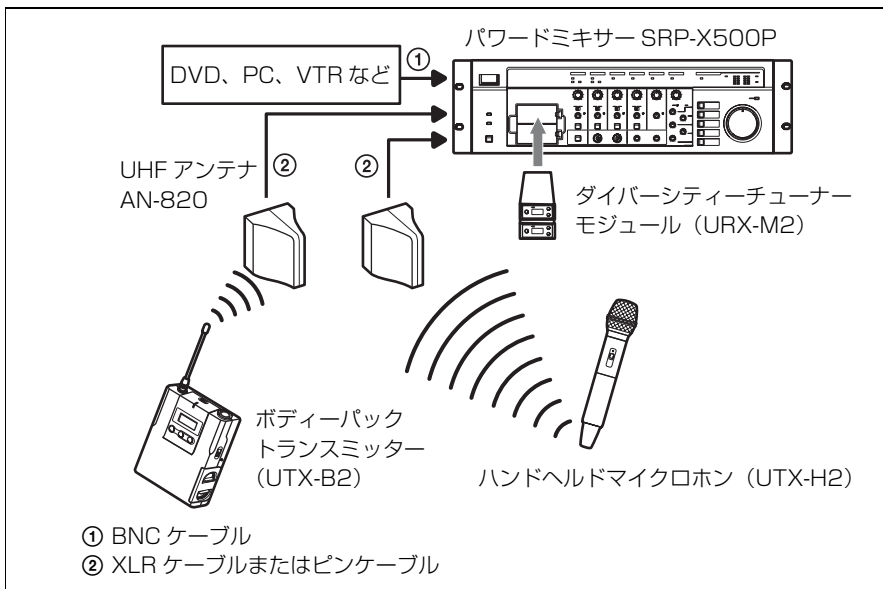
システム構成例

以下のシステム構成は、UWP シリーズの使用例です。

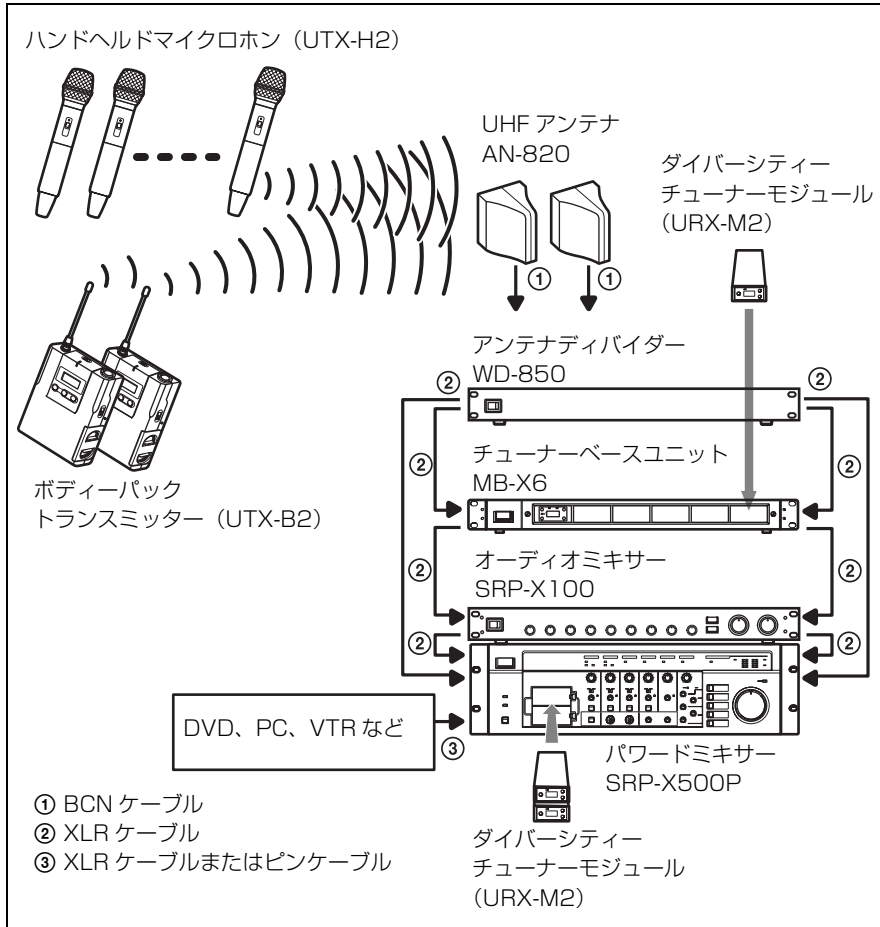
ENG (Electric News Gathering) または EFP (Electronic Field Production) での使用例 (カムコーダーとの組み合わせ)



AV プレゼンテーションでの使用例



PA システムでの使用例



エラーメッセージ

ディスプレイ部には、通常表示の他に次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

表示	意味	対応
Err 01	バックアップメモリーデータにエラーが発生しました。	お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。
Err 02	PLL シンセサイザー回路に異常があります。	電源を入れ直してみてください。それでも直らないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。
Err 03 ¹⁾	電源電圧が許容値を超えています	指定の電池をお使いください。

1) ボディーパケットランスマッター (UTX-B2) / ハンドヘルドマイクロホン (UTX-H2) / ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P2) のみ

故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

症状	原因	対策
電源が入らない。 ¹⁾	電池の ⊕ と ⊖ が逆になっている。	正しい方向に入れ直してください。
	電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください。
	電池端子が汚れている。	⊕ 端子、⊖ 端子を綿棒でクリーニングしてください。
電池がすぐになくなる。 ¹⁾	電池が消耗している。	新しい電池に交換してください。
	マンガン乾電池を使用している。	マンガン乾電池の持続時間はアルカリ乾電池に比較して半分以下になりますので、アルカリ乾電池を使用してください。
	寒い環境で使用している。	低温時は、電池寿命が短くなります。
チャンネルの変更ができない。	設定モードに入っていない。	SET ボタンを押しながら電源を入れて、ディスプレイ部のチャンネル表示を点滅させてから、+ / - ボタンで変更してください。

症状	原因	対策
音が出ない。	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	受信機の RF インジケーターが点灯しない。	送信機と受信機の電源を確認してください。
	送信機がライン入力に設定されている。 ²⁾	マイク入力に設定してください。
音が小さい。	送信機のアッテネーターの設定値が大きい。	入力レベルが小さくなっています。送信機のアッテネーターを適正量に設定してください。
	アンプ、ミキサーのボリュームが下がっている。	ボリュームを上げて適正音量にしてください。
	送信機がライン入力に設定されている。 ²⁾	マイク入力に設定してください。
音が歪む。	送信機のアッテネーターの設定値が小さい。または 0 である。	音量が過大入力です。音が歪まないように送信機のアッテネーターを設定してください。
	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	モノラルミニジャックのヘッドホンを使用している。 ³⁾	ステレオミニジャックのヘッドホンを使用してください。

症状	原因	対策
音切れ、ノイズが発生する。	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	2 本以上の送信機が同じチャンネルになっている。	同一チャンネルで 2 本以上の送信機は使用できません。 「チャンネルプラン」(32 ページ)に従って各マイクのチャンネルを設定し直してください。
	チャンネルが同一グループ内の設定になっていない	本機のチャンネルプランは、2 本以上の送信機を使用する場合、それぞれの送信機が混信しないように設定してあります。使用する送信機を同一グループ内のチャンネルに設定し直してください。
	近接チャンネルで運用している。	● チャンネルグループ01～09 を使用してください。 ● 2 チャンネル (250 kHz) 以上離れたチャンネルを使用してください。
送信機の電源を切っても、受信機の RF インジケータが点灯している。	妨害電波が出ています。	まず、受信機を RF インジケータが点灯していないチャンネルに設定し、次に、送信機を同じチャンネルに設定してください。2 本以上のマイクを使用している場合は、妨害電波のない他のグループに変更してください。

- 1) ボディーパケットランスミッター (UTX-B2) / ハンドヘルドマイクロホン (UTX-H2) / ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P2) のみ
- 2) ボディーパケットランスミッター (UTX-B2) のみ
- 3) ポータブルダイバーシティーチューナー (URX-P2) のみ

使用上のご注意

使用・保管場所

- UWP シリーズの機器を電力機器（回転機、変圧機、調光器など）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信機のアンテナの位置や送信機の使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置で使用してください。
- UWP シリーズの機器を騒音の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となり、規定の S/N を満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには次のようなものがありますので、充分に注意してください。
 - 回転機、変圧器などの付近
 - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
 - PA（Public Address）システムのスピーカー付近
 - スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶついたり、たたいたり、物を落としたりした場合対策として、影響を受ける条件からできるだけ離す、緩衝材を敷くなどしてください。

お手入れ

表面や端子部の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。シンナーやベンジン、アルコールなどの薬品類は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

電波干渉を防ぐために

使用時に外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。このような場合は、電波干渉を防ぐために電波の発射を停止する（電源を切る）か、あるいは周波数の変更（チャンネルの切り換え）を行ってください。

携帯通信機器による電磁波障害を防止するために

携帯電話などの通信機器を本機の近くで使用すると、誤動作を引き起こしたり、音声に影響を与えることがあります。本機の近くでは、携帯通信機器の電源はできるだけ切ってください。

警告

イヤホンやヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

主な仕様

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますご了承ください。

本機は、電波法により工事設計の認証を受けております。

本機の工事設計の認証番号は、機銘板に表示されております。機銘板をはがしたり、本機の内部やアンテナを改造して使用したりすることは、電波法で禁じられています。

お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

送信機 (UTX-B2/H2)

送信機共通

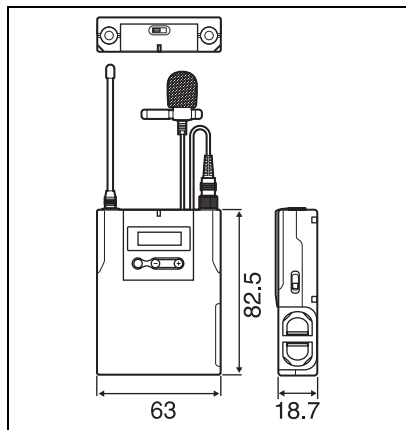
発振方式	水晶制御 PLL シンセサイザー
搬送波周波数	806 MHz ～ 810 MHz
RF 出力レベル	10 mW / 2 mW (選択可)
プリアンファシス	50 μ s
基準周波数偏移	$\pm$ 5 kHz (－ 66 dBV、1 kHz 入力時)
ひずみ率	1.0% 未満 (－ 60 dBV、1 kHz 入力時)
S/N 比	60 dB 以上
トーン信号周波数	32 kHz

アッテネーター	0 ～ 21 dB (3 dB ステップ)
ディスプレイ部	チャンネル、周波数、音声レベル、RF レベル、使用積算時間
電源電圧	3.0 V DC (単 3 形アルカリ乾電池 2 本)
電池持続時間	約 10 時間 (ソニーアルカリ乾電池 単 3 形 (LR6)、10 mW 出力、25 $^{\circ}$ C)
許容動作温度	0 $^{\circ}$ C ～ 50 $^{\circ}$ C
許容保存温度	－ 20 $^{\circ}$ C ～ + 55 $^{\circ}$ C

ボディパックトランスミッター (UTX-B2)

アンテナ	波長 1/4 λ ワイヤアンテナ
音声入力端子	ϕ 3.5 mm ミニジャック
基準音声入力レベル	－ 66 dBV (MIC 入力、アッテネーター 0 dB) +4 dBu (LINE 入力)
周波数特性	40 Hz ～ 15 kHz
インジケーター	AF/PEAK

外形図



寸法	63 × 82.5 × 18.7 mm (幅／高さ／奥行き) (アンテナ含まず)
質量	約 145 g (乾電池含む)

ハンドヘルドマイクロホン (UTX-H2)

マイクロホンユニット

ダイナミック

指向特性

単一指向

アンテナ

波長 $1/4\lambda$ ワイヤアンテナ (内蔵)

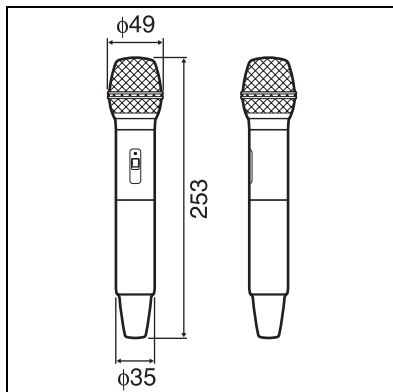
周波数特性

50 Hz ～ 15 kHz

インジケータ

電源入

外形図



寸法	φ49 × 253 mm (直径／長さ)
質量	約 308 g (乾電池含む)

受信機 (URX-P2/M2)

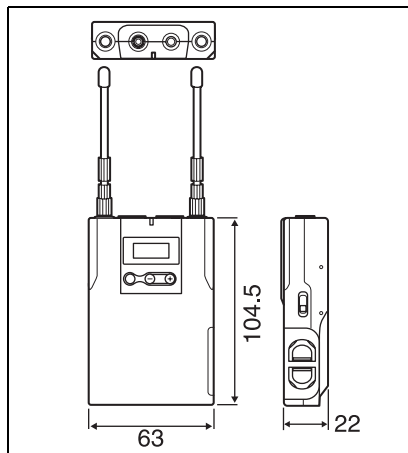
受信機共通

受信方式	スペースダイバーシティー方式
局部発振	水晶制御 PLL シンセサイザー
受信周波数	806 MHz ～ 810 MHz
S/N 比	60 dB 以上
ディエンファシス	50 μs
基準周波数偏移	± 5 kHz
周波数特性	40 Hz ～ 15 kHz
ひずみ率	1.0% 未満 (1 kHz 変調)
トーン信号	32 kHz
インジケータ	RF 入力レベル
許容動作温度	0℃ ～ 50℃
許容保存温度	- 20℃ ～ + 55℃

ポータブルダイバーシティー チューナー (URX-P2)

アンテナ	波長 $1/4 \lambda$ ワイヤー アンテナ (角度調 節可)
スケルチレベル	15 dB μ
音声出力レベル	- 58 dBm
音声出力端子	ϕ 3.5 mm ミニジャッ ク
ヘッドホン出力レベル	5 mW (16 Ω)
ディスプレイ部	チャンネル、周波数、 音声レベル、RF レ ベル、使用積算時 間、モニターレベ ル
電源電圧	3.0 V DC (単 3 形アル カリ乾電池 2 本)
電池持続時間	約 6 時間 (ソニーアル カリ乾電池 単 3 形 (LR6)、25 $^{\circ}$ C)

外形図



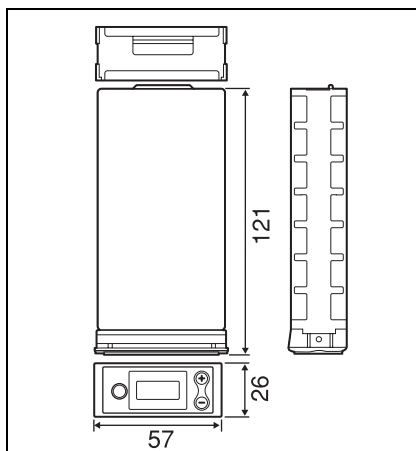
寸法 63 × 104.5 × 22 mm
(幅／高さ／奥行
き) (アンテナ含ま
ず)

質量 約 205 g (乾電池含
む)

ダイバーシティーチューナーモ ジュール (URX-M2)

スケルチレベル	25 dB μ
ディスプレイ部	チャンネル、周波数、 音声レベル、RF レ ベル

外形図



寸法 57 × 26 × 121 mm
(幅／高さ／奥行
き)
質量 約 150 g

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定の事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときは

お買い上げ店、または添付の「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーのサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お近くのソニーの営業所にお問い合わせください。

お問い合わせは

「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>

Printed in Korea